

「みなとから つくろう」

子どもたちは、その場にある材料からどのような構想を練り上げ、それをどのように生かして造形活動に取り組むのかを見つめていく。

研究の視点

子どもたちは、その場にある材料からどのような構想を練り上げ、それをどのように生かして造形活動に取り組むのかについて研究しました。

題材について

子どもたちは、学校の造形砂場で砂山をつくったりトンネルをつくったりする活動を好む。そこでは、友達と相談しながら、近くにある木切れや木の葉、草等を組み合わせ、自分の造形活動を発展させていく様子が見られる。

4年生ともなると、学校の造形砂場の規模、運動場で手に入る材料だけでは、子どもたちの欲求が満たされない状況になりつつあると感じる。そこで、砂浜という環境を与え、そこにある様々な材料を活用させたり、自由な雰囲気の中で友達とのかかわりを楽しませたりすることで、一層造形遊びが発展し子どもたちの能力が発揮させるのではないかと考えた。

発見1

子どもたちは、友達と相談しながら、みんなでイメージを広げて遊んでいる。

発見2

自分の活動に合わせて、身近にあるものを道具に使ったり、飾りに使ったりする。

支援のポイント

- 子どもたちの活動意欲を喚起させる環境づくり
- 造形遊びをさらに発展させるタイミングのよい支援



始めは高さを競っていた砂山づくりから、トンネルづくりや道づくり、飾り付けなど、子どもたちの興味によって活動が展開していきます。

学習の流れ 6時間(本時第1次)

砂浜からつくりだしていこう!

第1次

砂浜にある材料をもとにして思い付いた活動を楽しむ。

- 砂山をつくる。
- 道をつくる。
- お城をつくる。など

砂浜での活動は楽しいな。

教師 子どもと一緒に砂遊びの楽しさを感じる。

教師 危険がないように一人一人の活動を見守る。

第2次

材料を持ち寄って、さらに活動を発展させる。

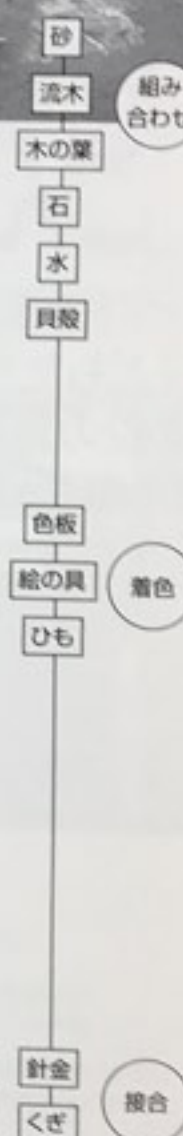
- 友達と砂山を一緒にして新しいものをつくる。
- 道に車を走らせながら思い付いたものをさらにつくる。
- お城に貝殻やビー玉などを付けて飾る。など

だんだんすごいのができてきたぞ。

教師 活動状況に従い、必要に応じた支援をする。

また、こんな活動をしたいなあ。

教師 子ども一人一人の願いをつかみ、さらに発展的な造形遊びを考える。



宮崎市立 宮崎港小学校

福島 直也

会場番号: ⑪-A

会場: 宮崎港近くの砂浜

※現地にて受け付け

※シンポジウム会場は水産会館 ⑪-B

助成者: ○: コーディネーター、コメントーター

○益満 久男(鹿児島)、平尾 隆史(京都)、野村 典代(広島)、
丹田 千恵子(大阪)、岸信 秀一(鳥取)、石上 敬三(神戸)、
今門 幸蔵(宮崎)